

地域再生計画

1 地域再生計画の名称

離島奄美の特性を生かした創造的で多様な産業の活性化計画

2 地域再生計画の作成主体の名称

鹿児島県名瀬市

3 地域再生計画の区域

名瀬市の全域

4 地域再生計画の目標

本市は、鹿児島から南西へ約 380 kmの海上にある奄美大島のほぼ中央に位置し、平成 17 年 3 月 31 日現在の人口は 41,062 人となっており昭和 60 年の 49,765 人をピークに減少傾向にある。また、産業就業者数についても昭和 55 年の 22,612 人をピークに、平成 13 年には 18,612 人に落ち込んでいる。

この要因の一つとして、生産額が最盛期の 10 分の 1 の約 25 億円まで落ち込んだ基幹産業である大島紬の長期低迷があり、行政や本場奄美大島紬協同組合等の連携のもと、販売促進活性化策や各種支援策を講じているものの消費者の和装離れや消費者ニーズの変化もあり、販売促進に繋がっていないのが現状である。

また、もう一つの要因として公共事業等の減少に伴う建設業の不振が上げられる。建設業においては市内の経済や雇用の中心を担ってきただけにその不振は、長引く景気低迷とともに地域経済に大きな影響を及ぼしている。

こうした現状の中で、近年の健康志向の影響を受け、亜熱帯の太陽の恵みのもとミネラル豊富な地域特産農作物を用いた機能性食品が注目され、その需要がここ数年非常に高まっている。とりわけ、近年の焼酎ブームの追い風を受け、奄美地域特産の黒糖焼酎の伸びが著しく、本市産業を支えるほどの勢いで成長している。

さとうきびは、南西諸島の特産農作物であるが、農業従事者の高齢化、後継者不足、島外地主との連絡困難などの問題を抱え、遊休農地が増加し生産が伸びない状況にある。

さらに、分蜜糖の生産量維持を図る必要がある中で、含蜜糖（黒糖）を原料とする黒糖焼酎産業は原料不足という厳しい状況に直面している。今後は、奄美群島でしか生産できない「黒糖焼酎」の原料となるさとうきび生産体制等の整備を図り、雇用の場を創出することが求められている。

さとうきびは、離島の活性化に最もコストの安い最も効果的な農作物である指摘されている。しかも、近年は、サトウキビ副産物（梢頭、糖蜜、バガ

ス等)の多様な活用が注目され、今後の研究によっては、一層離島経済に対する貢献度は高くなると期待されている。

そこで本市は、今後の発展が期待できる「さとうきび」を可能性のある資源として見直し、それを基軸に第二次から第三次産業へと派生する産業の連関を図りつつ地域の活性化を目指す。

その具体的な取り組みとして、外海離島である奄美でも有効な手段であるIT技術を活用し、さとうきびを基軸とするこの循環型経済の活性化の取り組みを広く紹介し、自然に優しい、「都市と自然」「人と自然」が共生する「癒しの島・奄美」をPRすることにより、観光振興や特産品等の販路拡大を図っていく。

またこれらの取り組みの推進に不可欠なものとして、域内のIT産業の振興がある。そのためには高度な技術力を持ったIT技術者の育成を図るとともに、IT人材の底辺拡大のためIT関連企業の誘致・創出を進め、IT従事者の拡大を図っていく必要がある。

そこで本地域再生計画のもと、地域提案型雇用創造促進事業(パッケージ事業)を活用し、さとうきび産業では、新規さとうきび農家を育成し、植え付け面積を現在の3.8haから20haへ増加させ、生産量を74tから1400tへ増やすことを目標とする。またIT産業では、既存及び誘致企業の求める人材を育成し、約200名のIT関連企業従事者の雇用増加を図り、さとうきび生産拡大及び雇用創出による地域の活性化を目指していく。

本市は、こうした離島特有の産業分野を有機的に結びつけ、新たな発想と質的向上を基盤とした環境整備を図り、かつ市民協働による横断的な課題解決により内発的産業を起こしながら、自立する持続可能な「離島の拠点都市」を構築する。

5 目標を達成するために行う事業

5-1 全体の概要

本市では、遊休農地の解消、さとうきび生産の拡大を図るため、土壌改良や植栽、耕耘等への支援を行い、さとうきびの生産振興に取り組んできた。しかし現状としては、新規さとうきび就農者はほとんどなく、さとうきび農家及び技術者の確保には限界があり、集中的、総合的な支援が必要とされている。そこで、地域提案型雇用創造促進事業(パッケージ事業)を活用し、建設業等からの新規就農者の促進を図り、さとうきび生産拡大により期待される様々な利用用途(精糖、黒糖、焼酎、バカス、黒糖焼酎粕、焼酎粕由来の新規製品等)を総括的に鑑み、循環型経済の活性化を図るための事業を行う。また、これらの取り組みや恵まれた奄美の自然、伝統文化、食文化等をIT技術を活用し広く情報発信するとともに、生産されたさとうきび加工品や特産品の販路拡大及び域内のIT産業の振興を図るための人材育成事業を実施する。

5 - 2 法第 4 章の特別の措置を適用して行う事業
該当なし

5 - 3 その他の事業

5 - 3 - 1 地域提案型雇用創造促進事業（パッケージ事業）を活用して
行う事業

(1) 実施主体

名瀬市産業活性化協議会

構成員：名瀬市、奄美大島商工会議所、奄美大島観光物産協会、JA 奄美、名瀬漁業協同組合、名瀬市情報通信連絡協議会「e-あまみ」、名瀬市通り会連合会、株式会社道の島公社、本場奄美大島紬協同組合、財団法人名瀬市営農センター、奄美観光受入連絡協議会、奄美大島酒造組合、奄美建設業協会、あまみ大島森林組合、学識経験者

(2) 実施期間

平成 17 年度から平成 19 年度までの 3 年間

(3) 実施事業

企業の新分野進出支援事業

公共事業の減少にともない景気の低迷する建設業等がさとうきび栽培分野、畜産分野への事業拡大や、新規企業の設立を支援するため、農業及び畜産経営技術を有する人材の育成と事業主等に対する人事管理の相談、コンサルティングなど経営ノウハウに対し、専門家を招聘し研修を行なうなど、新分野進出の動きを促進することにより、地域産業の振興と活性化を図っていく。

さとうきび栽培及び黒糖加工に対する技術取得等の支援事業

新分野へ進出した企業が新たな雇用者の確保を円滑にするため新規さとうきび参入者に対し、さとうきび栽培及び黒糖加工の技術取得の支援を行なう。

そのため、さとうきび栽培に対する技術取得だけでなく、先進地の成功事例の視察や研修等を行なう。

また、さとうきびの一次加工、二次加工の技術も取得し、黒糖の生産増加を図る。

生産増によって発生するバカスは、質の高い牛糞等堆

肥化として利用できるよう堆肥化技術の向上を図り、堆肥生産分野での雇用創出を図っていく。

(具体的な事業)

さとうきび栽培成功事例視察、研修
農業人材開発研修
堆肥化技術の研修
黒糖加工技術の研修

特産品販売促進・観光ビジネス展開支援事業

奄美独自の特産品である「本場奄美大島紬」や「黒糖焼酎」及び亜熱帯の恵まれた自然、島唄に代表される伝統文化等様々な地域資源をインターネット等の IT を活用し、広く島外への PR を図り、販路の拡大や観光客の増加を図ることを目的に、特産品においては、インターネット販売を促進するため、「オンラインショッピング啓発セミナー」や「名瀬市 IT 企業塾」を実施し、農家や青果店等のインターネット販売に対する意識啓発、ノウハウの取得及び IT 技術力向上を図り、需要拡大による生産者及び流通分野における雇用の創出を図る。

(具体的な事業)

オンラインショッピング啓発セミナーの開催
名瀬市 IT 企業塾の開催

SOHO事業者支援事業

本市では、SOHO事業の一環であるデータエントリー事業は、インターネットに接続できる環境があれば在宅でも入力作業が可能であり、また比較的技術力を要せずに入力作業が行えるため、外海離島にある本市にとって雇用機会や雇用創出を図る有効な手段であると考え、平成15年度から「名瀬市SOHO支援モデル事業」としてデータエントリー事業を営む企業に対し、入力ワーカーの育成を図るための講習会やOJT、在宅で入力作業を行なう際の機器整備等への助成を行ない、就業の機会を図ってきた。しかし就業の機会は増えたものの新たな雇用創出までには至っていないのが現状である。

そこで、講習会を受講したものやSOHO起業家を目指すものが自ら受注活動を行ない起業家として自立できるためのノウハウや技術力及び起業後の採用や人

事管理等に必要な知識の習得のための講習会を実施し、雇用の拡大・創出を図る。

コールセンター就職支援事業

立地を予定している企業への就職を支援するためコールセンター業務の啓発や基礎的なトレーニングを行なう他、同社への就職者を対象にスキルアップ研修や業務管理などについての研修を行ない、同社のニーズに即した人材の育成を図っていく。

(具体的な事業)

- コールセンター就職支援セミナーの開催
- コールセンター人材育成講座の開催

ITスペシャリスト養成講座の開催

本市では、独立行政法人雇用・能力開発機構が実施する「EXCEL・WORD訓練」や「パソコン・会計訓練」などの基礎的な職業訓練は実施されているものの、WEBクリエイター、CAD、ACCESS、プログラミングなどの専門的な訓練は実施されておらず受講に際しては、長期間島外での滞在を強いられ、費用の面等で受講ができずにIT技術者が育ちにくい現状にある。

そこで、パッケージ事業により基礎的なIT技術力を持つものを対象にこれらの専門研修を行ない、高度なIT技術者育成を図る。

(具体的な事業)

- パソコン実務研修の開催
- CAD実践研修の開催
- ACCESSソフト研修の開催
- Webクリエイター育成研修
- プログラミング技術者育成研修

5 - 3 - 2 名瀬市独自の取組

(1) さとうきび生産振興事業

- イ 事業の実施主体
さとうきび生産拡大組合

- ロ 事業の具体的内容

さとうきび生産者及びさとうきび作付面積の減少に歯止めをかけるため畜産との複合化や園芸作物との輪作体

系の推進を図り、さとうきび生産拡大を図っていく。

ハ 実施スケジュール

平成17年度から平成19年度までの3年間

(2) 堆肥生産販売事業

イ 事業の実施主体

(財)名瀬市営農センター

ロ 事業の具体的内容

市内から発生する未利用資源(オガクズ、下水汚泥等)を活用した汚泥発酵堆肥(活力)を販売し、環境保全型農業を推進し、土づくりの啓発・生産性の向上等農家ニーズに対応する。

ハ 実施スケジュール

平成17年度から平成19年度までの3年間

(3) 黒糖焼酎粕(廃液)由来の生理活性物質を活用した新たな製品開発研究事業

イ 事業の実施主体

名瀬市

ロ 事業の具体的内容

黒糖焼酎粕(廃液)製造時に排出される粕(廃液)に含まれる有用成分を活用して機能性素材(染色材、化粧品等)を開発し新たな産業を創出する。

ハ 実施スケジュール

平成17年度から平成18年度までの2年間

(4) 観光特産品の販路拡大

イ 事業の実施主体

名瀬市、奄美大島観光物産協会、奄美観光受入連絡協議会

ロ 事業の具体的内容

1,300年の伝統を有する本場奄美大島紬と奄美でしか製造できない「黒糖焼酎」などの特産品の販路拡大と亜熱帯の魅惑の島・奄美の自然、文化を広く紹介し観光客誘致のために全国各地で物産展開催や各種イベントへの出展を行なう。

八 実施スケジュール

平成17年度から平成19年度までの3年間

(5) 奄美癒しツーリズムモデル事業

イ 事業の実施主体
名瀬市

ロ 事業の具体的内容

奄美には、原生林をはじめ、農漁村にも豊かな自然があり、美しい景観、古来から受け継がれる島唄等の伝統芸能、地域の自然に根ざした長寿の食生活、ゆったりと時を過ごせる「癒しの空間」がある。これらの地域資源を活用した、体験プログラムの開発とともに受入体制、体験内容・期間・適正価格等の検証とモニターツアーでの検証を行い、農家民泊の推進を図る。

八 実施スケジュール

平成17年度

(6) SOHO（データエントリー）事業の支援

イ 事業の実施主体
名瀬市

ロ 事業の具体的内容

データエントリー事業を行なう企業に対し、SOHO支援モデル事業として、入力ワーカーの募集・育成を図る講習会やOJTに要する費用及び在宅で入力作業を行なう際の機器整備に係る費用の一部を助成する。

八 実施スケジュール

平成17年度から平成19年度までの3年間

(7) コールセンター企業への支援

イ 事業の実施主体
名瀬市

ロ 事業の具体的内容

立地するコールセンター企業に対し、立地及び事業の実施に要する費用の一部を助成する。

八 実施スケジュール

平成17年度から平成19年度までの3年間

6 計画期間

認定を受けた日から平成19年度末(3年間)

7 目標の達成状況に係る評価に関する事項

本計画では「さとうきび」を基軸に第二次から第三次産業へと派生する産業の連関を図り多様な産業の活性化を図ることを目的とし、本計画終了段階において、さとうきび植え付け面積を現在の3.8haから20haへ、生産量を74tから1400tへ増やすとともに、約200名のIT関連企業従事者の雇用増加を図ることを目指している。従って、本計画終了段階における数値目標の達成状況によって地域再生計画の取り組みを評価する。

8 地域再生計画の実施に関し当該地方公共団体が必要と認める事項

特になし